

(研究部門)

授業が変われば子どもが変わる
～児童が見方・考え方を働かせる授業づくりをめざして～

大阪市立住吉小学校

1. 研究主題設定の理由

本校ではこれまで人権教育を教育の重要な柱とし、望ましい人間関係を基に学習に取り組むことに力をいれてきた。しかしその一方で、授業が改善され児童の学力は上がっているのかどうかといった点については、課題が残る部分があった。

現行の小学校学習指導要領では、「情報活用能力」が言語能力などと同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、各学校におけるカリキュラム・マネジメントを通じて、教育課程全体で育成するものとなった。情報活用能力を発揮させることにより、主体的・対話的で深い学びへとつながっていくことが一層期待されている。

そこで昨年度より、リーディング DX 指定校となったこともあり、情報活用能力の育成を中心に据え、児童が見方・考え方を働かせて主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を行うこととなった。

2. 研究の趣旨

研究1年目の昨年度は教育 DX のめざす姿「いつでもどこでもだれでも」を実現するために、家庭学習とクラウド活用に重点をおいて取り組んできた。家庭学習で動画を視聴して事前学習をしたり、クラウドを活用して考え等を共有したりすることで、児童の見方が変わったり考えを深めたりすることができた。

今年度は、大阪市の生成 AI 活用実践パイロット校に選定されたため、生成 AI の活用の仕方について研究を深めることにした。社会に急速に普及しつつある生成 AI の有益な活用方法を探る過程で、さらに児童が新たに見方・考え方を働かせることができると考える。授業では、目標を達成するために、教師のみが使用する生成 AI (ChatGPT や Copilot など) や児童が利用できる生成 AI (tomoLinks) をどのように活用すれば効果的かを考えていく。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 生成 AI の効果的な活用方法の探求

生成 AI を授業でどのように活用すれば、児童の主体的・対話的で深い学びを促進できるかを探る。生成 AI を使った事前学習やクラウドを活用した考えの共有を通じて、児童の見方や考え方を深める方法を研究。

視点② 生成 AI を活用した創造性の育成

生成 AI を参考にしながら新しいアイデアを組み合わせたり、自分らしい表現を考えたりするプロセスを通じて、児童の創造性を育む。生成 AI の回答をそのまま写すのではなく、アイデアや表現の参考にすることで、児童の発想力や表現力を向上させる方法を研究。

視点③生成 AI を用いた自由進度学習の推進

生成 AI を活用することで、児童がそれぞれのペースで学習を進めやすくする自由進度学習の可能性を探る。得意な児童は生成 AI と次々とやり取りを進め、苦手な児童はじっくりと進めることで、個々の学習ペースに合わせた指導方法を研究。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

今年度の研究では、学習の目標を達成するためにどのように生成 AI を活用すると効果的なのかというこ

とを考えてきた。教育分野においてまだ実績の少ない領域であり、前例のない取り組みの中で模索を重ねることとなったが、「授業が変われば子どもが変わる」という研究テーマのもと、実践を進めてきた。

当初懸念していた「生成 AI の回答をそのまま写してしまうのではないか」という問題も、どのように回答を見るのか、どのように自分に必要な箇所を見付けるのかを繰り返し指導し、活用を重ねる中で、児童の中に「生成 AI はアイデアや表現の参考にするもの」という意識が芽生えてきた。学習に取り組む際に使用するツールの 1 つとして、思考の糸口をつかむためや表現の幅を広げるために使用することで、児童の意欲を引き出すことができた。このような使い方をすることで、今後、児童の創造性をより育む可能性がある。生成 AI のアイデアや表現を参考にしながら新しいアイデアを組み合わせたリ、自分らしい表現を考えたりするといったプロセスを繰り返すことで、発想力や表現力といった創造性の基盤を形成することが期待できる。

また、学習の内容や生成 AI の設定によっては、児童がそれぞれのペースで学習を進めやすく、自由進度学習が進めやすい。得意な児童は生成 AI と次々とやり取りを進め、苦手な児童はじっくりと進めることができる。生成 AI が学習の新しい伴走者になりえることが分かった。

(2) 今後の課題

生成 AI を活用した授業には多くの可能性が期待される一方で、いくつかの課題が浮き彫りになってきた。

まず、生成 AI を効果的に活用するためには、生成 AI と対話をする際に必要な思考力が求められる。生成 AI を思うように動かすには、自分の考えを整理し、適切な指示を与えるスキルが必要となる。そのための言語能力や課題解決力を授業内で育む必要がある。

次に、生成 AI の設定が難しい点も課題である。効果的に生成 AI を動かすには、目的に応じた具体的かつ明確な指示を与える必要がある。本校では主に tomoLinks を使用して教師が生成 AI の設定を行ったが、かなりの時間を要した。授業設計の支援や具体的な活用事例の共有が今後期待される。

1 年間生成 AI について研究を行ってきた結果、生成 AI が教育現場にもたらす可能性を実感すると同時に、多くの課題にも直面した。今後も今年度学んだことを生かし、児童が見方・考え方を働かせる授業づくりを目指していきたい。